

雑報 第三十八回文科 學術談話會記事

六月七日、木曜日午後二時二十分から次の順序で開きました。

- 一、開會之辭
- 二、講話 生江先生
- 三、露西亞 四年 矢谷、中村
- 四、國文朗讀 二年 山 高 茂
- 五、五節句の話 三年 鷺 山 咲
- 六、閉會之辭

御多忙の中を校長先生はじめ下田、垣内、土屋、河崎、千葉諸先生御臨席下され、中程「女子教育」の石橋臥波氏も御出で下さいましたことは、誠に嬉しうございました。

生江先生の御話は「奉公の精神」といふ題で、大變感動する御話の中には泣かれた方さへございました。た、時事問題として「露西亞」を地理的、歴史的の兩方面から研究する積りでございましたけれども、餘

たのは六時十分前。

會費領收報告

大正三、四、五、六年度分

齋藤彌生 奥田 久

大正四、五、六年度分

櫻井藤枝 篠原みやの 深見 靜  
延原春賀

大正五、六年度分

阿部ツル 岡崎 なみ 岡本 須惠  
池邊芳江 塘 光 田北 よれ  
進藤ちか 齋藤たまを 笹原 榮  
北澤あきの 梶原千代 中西 ちよ  
桑田 龍 石川しげ 魚住しげの  
内山竹惠 小野あつ 小野 清  
大西しづ 吉澤 信 柳下三巳  
松村さみ 馬上はじめ 源 ミイ  
松橋やす 原 しげの 平川 淑  
藤枝きしの 栗崎さき 竹田 いく  
田川みどり 國府ふみ 水島 いく  
大正四、五、六年度分  
山邊 文子 直江かめよ

りに六ヶ敷いので歴史的方面の省かれましたのは、遺憾に存じました。「氣候と人文との關係」をもつて明瞭にしてほしかったといふ、西村先生の御批評もございましたが、しかし文學に及ばれたことや口調の緩かなお話振りは結構でした、國文朗讀として自作文の朗讀も上出来でした、若々しいけれど、想の深いすつきりとした文「雨の日に茶室でさいたら」と誰かゞさゝやいてゐました、五節句は随分詳細な研究、定めし骨折だつたらうと存じます、たゞ時間の足らなかつた爲め、後の方を簡單にして戴きましたことは、研究なすつて下さつた方に御氣の毒に存じます、河崎先生が作文について御話し下さる筈でございましたか、之もおそくなつたので、尋常三年の子供の作文を四つ五つ讀んで戴いた丈でしまひました、眞卒な子供の文に私は寧ろ尊さを感じました。ながい夏の日影がカーテンから洩れて、赤いゼラニウムの花と青い楓の葉とがうつりよく机を飾つてゐました、この度新らしい意匠として半頃の休憩に生徒のピアノをはさみました、よい考だとおほめにあづかつたので喜んでゐます、かくて會を閉ぢまし

大正五年度分

清水俊尾 鳥澤しげ 小川くに  
水谷年惠 高橋すゑ

大正六年度分

尾臺ハル 中村 宏 太平ふじ  
速水 信 菅野けい 菊田さよ  
栢野ヒサ 大橋しま 江藤アサ  
西田彌生 山田千代 福井てい  
千田 拙 波多野 操 佐治きぬ  
鳥井しき 植田たき 三浦みれよ

新賛助員

大橋しま 江藤アサ 西田 彌生  
山田千代 福井てい 千田 拙  
波多野 操 佐治きぬ 鳥居 志貴  
植田タキ 三浦峰代 久保 清子  
野田能子 天野かつ

入會者(文一)

一番ヶ瀬ハル 岩田サカ 岩瀬 春代  
今井よれ 石黒 善 大友 イツ  
刈込いさ 川島 春 河野 ヒサ  
横井トシ 柳澤 雪 丸山 ひさえ  
松本ハマ 福島 秀 近藤 壽美  
赤木しづ子 赤木益子 木村 さこ